

2026年3月期 第3四半期 決算補足資料

1. 決算概観（連結）	P.2
2. 業績（連結）のポイント	P.3
3. 業績（連結）の状況	P.4
4. 業績と予想（連結）	P.5
5. 主要製品の状況	P.6
6. 開発品一覧	P.7～9

2026年2月4日
杏林製薬株式会社



■ 将来の見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2026年3月期 第3四半期 決算概観（連結）



（単位：百万円）	23年3月期 第3四半期	24年3月期 第3四半期	25年3月期 第3四半期	26年3月期 第3四半期	対前年 （%）	26年3月期 （予想）	対前期 （%）
売上高	80,707	87,267	89,286	92,456	+3.6	127,000	-2.4
営業利益	4,702	4,803	3,115	4,609	+47.9	6,100	-51.5
経常利益	5,336	5,391	3,753	5,097	+35.8	6,300	-52.3
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	4,377	4,149	2,439	4,119	+68.9	4,800	-47.2

26年3月期 第3四半期 連結業績（実績）

【売上高】 当社グループ全体の売上高は924億56百万円と前年同期比31億69百万円の増収となりました。新医薬品等（国内）の売り上げは、薬価改定の影響はあったものの、積極的な新薬の普及に努め、成長ドライバーである「ベオーバ」をはじめとした新薬が伸長したことにより、前年同期を上回る実績で推移しました。また後発医薬品の売り上げは、2024年度追補収載品の売上寄与、長期収載品の選定療養等の影響により、増加しました。

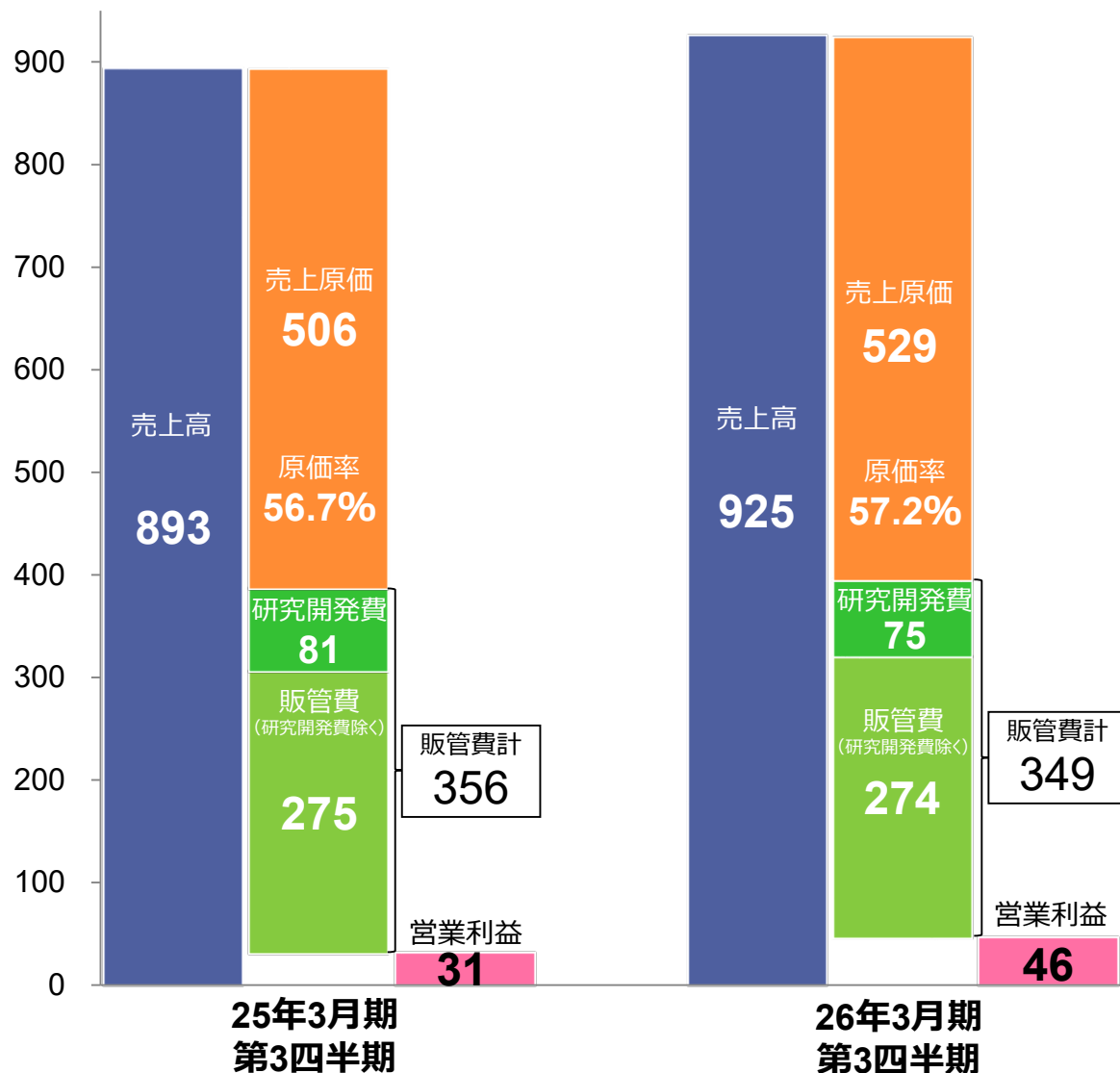
【利益】 売上の増加により、売上総利益は395億32百万円と前年同期に対して8億60百万円増加しました。また販売費及び一般管理費が、前年同期に対して6億32百万円減少（うち、研究開発費は5億21百万円減少）した結果、営業利益は46億9百万円と前年同期比14億93百万円の増益（前年同期比47.9%増）、経常利益は50億97百万円（前年同期比35.8%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、投資有価証券売却益等を特別利益に計上したことにより、41億19百万円（前年同期比68.9%増）となりました。

26年3月期 連結業績（予想）

現時点におきまして、2025年5月12日に公表した通期の業績予想を変更しておりません。
また2025年5月12日に公表した配当予想（年間57円／株）の変更はございません。

2026年3月期 第3四半期 業績（連結）のポイント

（単位：億円）



売上高は増加 (+32億円)

- 新医薬品等（国内）の売上増加
・新薬（ベオーバ、デザレックス）の伸長
- 後発医薬品の売上増加

売上原価率は 0.5ポイント上昇

【上昇要因】

- 薬価改定（杏林製薬5%台）
- 後発医薬品の売上増加

【低下要因】

- 新薬（ベオーバ、デザレックス）の売上増加

売上総利益は増加 (+9億円)

販管費は 7億円減少

- 研究開発費は6億円減少
・当期：KRP-A225導入の契約一時金支出15億円
・前期：KRP-S124導入の契約一時金支出24億円
- 販管費（研究開発費除く）は 1億円減少
・本社移転等によるコスト削減、特許等使用料の増加等

営業利益は増加 (+15億円)

2026年3月期 第3四半期 業績（連結）の状況

(単位：億円)	25年3月期 第3四半期	26年3月期 第3四半期	対前年 (額)
売上高	893	925	+ 32
新医薬品等（国内）	629	650	+ 21
新医薬品（海外）	5	6	+ 1
後発医薬品	259	268	+ 9
営業利益	31	46	+ 15
経常利益	38	51	+ 13
親会社株主に帰属する 四半期純利益	24	41	+ 17

■ 売上高 925億円 (+32) (対前年)

● 新医薬品等（国内） 650億円 (+21)

	25.3 (3Q)	⇒	26.3 (3Q)	
・ベオーバ	167	⇒	194	(+27)
・ラスビック	58	⇒	56	(-2)
・リフヌア	7	⇒	7	(+0)
・デザレックス	56	⇒	59	(+3)
・フルティフォーム	106	⇒	99	(-7)
・ペンタサ	94	⇒	96	(+2)
・キプレス	26	⇒	15	(-11)
・ムコダイン	26	⇒	30	(+4)

● 新医薬品（海外） 6億円 (+1)
ガチフロキサシンに関わる収入等

● 後発医薬品 268億円 (+9)
2024年度追補収載品の売上寄与、長期収載品の選定療養等の影響

■ 営業利益 46億円 (+15)

● 原価率：57.2%（前年同期：56.7%）
【上昇要因】薬価改定、後発医薬品の売上増加
【低下要因】新薬（ベオーバ、デザレックス）の売上増加

● 研究開発費：75億円（前年同期：81億円）
当期：KRP-A225導入の契約一時金支出15億円
前期：KRP-S124導入の契約一時金支出24億円

● 販管費（研究開発費除く）：274億円（前年同期：275億円）
本社移転等によるコスト削減、特許等使用料の増加等

■ 親会社株主に帰属する
四半期純利益 41億円 (+17)

● 特別利益：5億円
投資有価証券売却益4億円等

2026年3月期 第3四半期 業績と予想（連結）

(単位：百万円)	第2四半期		第3四半期				通期		
	25年3月期	26年3月期	25年3月期	26年3月期	対前年 (額)	対前年 (%)	25年3月期	26年3月期 (予想)	進捗率 (%)
売上高	55,139	58,731	89,286	92,456	+3,169	+3.6	130,087	127,000	72.8
新医薬品等（国内）	39,029	41,405	62,892	65,042	+2,150	+3.4	84,158	89,000	73.1
新医薬品（海外）	424	504	517	580	+62	+12.1	8,860	200	290.1
後発医薬品	15,686	16,822	25,876	26,833	+956	+3.7	37,068	37,700	71.2
営業利益	1,549	1,363	3,115	4,609	+1,493	+47.9	12,567	6,100	75.6
経常利益	2,050	1,582	3,753	5,097	+1,343	+35.8	13,219	6,300	80.9
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	1,255	1,494	2,439	4,119	+1,680	+68.9	9,086	4,800	85.8

2026年3月期 第3四半期 主要製品の状況

(単位：億円)		第2四半期		第3四半期				通期		
		25年3月期	26年3月期	25年3月期	26年3月期	対前年 (額)	対前年 (%)	25年3月期	26年3月期 (予想)	進捗率 (%)
新医薬品等 (国内)	ベオーバ (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	104	123	167	194	+27	+15.9	221	251	77.3
	ラスビック (ニューキノロン系抗菌剤)	30	35	58	56	-2	-3.1	78	85	65.8
	リフヌア (選択的P2X3受容体拮抗薬／咳嗽治療薬)	4	5	7	7	+0	+4.8	9	11	67.8
	デザレックス (アレルギー性疾患治療薬)	34	37	56	59	+3	+5.5	96	101	58.6
	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	64	63	106	99	-7	-6.3	137	132	75.1
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	62	63	94	96	+2	+1.4	122	116	82.5
	キプレス (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	18	9	26	15	-11	-40.1	35	21	73.4
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	15	20	26	30	+4	+17.7	36	52	57.7
	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	9	9	14	14	-0	-0.3	18	18	79.8
	ルビスタ (環境除菌・洗浄剤)	6	4	9	6	-3	-29.5	11	10	62.7
後発 医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	50	44	83	76	-7	-8.4	120	113	67.1
	モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	7	11	17	20	+3	+17.9	41	43	46.9

開発品一覧①（2026年2月4日現在）

Ph3 ～ 発売

製品名／ 開発コード	開発段階		予定適応症／ 対象疾患	起 源	特 徴	備 考
	国内	海外				
KRP-R120	Ph3 自社 (22年9月)	Ph3 エイタイヤー社	間質性肺疾患 (肺サルコイドーシス)	エイタイヤー社 (アメリカ)	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2受容体（NRP2）に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス等の炎症疾患への効果が期待される	

POCプロジェクト（Ph1 ～ Ph2）

開発コード	開発段階		予定適応症／ 対象疾患	起 源	特 徴	備 考
	国内	海外				
KRP-S124 (BAY2925976)		Ph1終了 バイエル社	閉塞性睡眠時無呼吸 等	バイエル社 (ドイツ)	ADRA2C拮抗作用を有し、中枢性に上気道虚脱を軽減し、閉塞性睡眠時無呼吸に見られる一時的な無呼吸・低呼吸を改善することが期待される	<ul style="list-style-type: none"> 全世界を対象とした独占的製造、開発、販売権に関するライセンス契約を締結（24年12月） Ph2準備中
KRP-114VP	Ph1 自社 (22年8月)	—	過活動膀胱	メルク社 (アメリカ)	膀胱平滑筋に存在するβ3アドレナリン受容体を選択的に刺激し、膀胱を弛緩させることで蓄尿機能を亢進し、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を改善する	<ul style="list-style-type: none"> ベオーバの小児への適応拡大 Ph1終了

開発品一覧②（2026年2月4日現在）

POCプロジェクト（Ph1 ～ Ph2）

開発コード	開発段階		予定適応症／ 対象疾患	起 源	特 徴	備 考
	国内	海外				
KRP-A225 (HB2198)		Ph1準備中 ヒンジバイオ社	全身性エリテマトー デス（SLE）等	ヒンジバイオ社 （アメリカ）	B細胞表面上のCD19及びCD20 分子を標的とする二重特異性抗体 B細胞の除去により免疫システムを 「リセット」することで、SLEへの治療 効果が期待される	・日本における共同開発及び販売に関する ライセンス契約を締結（25年9月） ・ヒンジバイオ社Ph1試験準備中

導出品の状況

製品名／ 開発コード	開発 段階	導出先	予定適応症／ 対象疾患	起 源	特 徴	備 考
KRP-203	Ph3 プリオセラ社	プリオセラ社 （アイルランド）	—	自社	S1P受容体アゴニスト	・本剤の開発・販売等に要する特許・データ等の 知的財産及び原薬等を譲渡（20年9月）
KRP-M223	前臨床	バルティス社 （スイス）	マスト細胞が関与 する慢性特発性 蕁麻疹などのアレ ルギー性疾患や 炎症性疾患	自社	MRGPRX2 拮抗薬	・全世界を対象とした独占的な開発、製造、 及び商業化に関するライセンス契約を締結 （25年3月） ・当社は日本における商業化及び日本向けの 製造に関するオプションを保有

DTxの状況

開発コード	契約先	予定適応症／対象疾患	備考
KRP-DT123	サスメド(株)	耳鳴	・耳鼻科領域における治療用アプリの共同研究開発及び販売に関する契約を締結（22年11月） ・検証的試験準備中
KRP-DC125	ハイツ社 (アメリカ)	慢性咳嗽	・慢性咳嗽治療用アプリに関する「開発・商業化契約」を締結 ・検証的試験準備中

オプション契約

開発コード	開発段階		予定適応症／対象疾患	起 源	特 徴	備 考
	国内	海外				
BDT272	—	Ph1 ビオドール社	慢性疼痛等	ビオドール社 (フランス)	神経障害性疼痛などの慢性疼痛の発症と持続に深く関与するFLT3（受容体型チロシンキナーゼファミリー）を阻害することで、効果的な鎮痛作用を発揮することが期待される	・日本及びアジア地域（中国を除く）における開発・販売権のライセンスに係るオプション契約を締結（25年1月）
CYR-064	—	Ph2 シラーノ社	感冒後嗅覚障害	シラーノ社 (アメリカ)	テオフィリン含有点鼻製剤であり、非特異的ホスホジエステラーゼ阻害作用によりcAMPの分解を抑制し、細胞内濃度を上昇させて神経の興奮性を高める	・日本における開発・販売権のライセンスに係るオプション契約を締結（25年2月）